

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】(<https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-8906>)

7月13日(土)～9月29日(日)



企画展： 東海の陶造形

東海地方の岐阜県と愛知県の陶磁器産地では、1960年代に、伝統的な器とは異なる現代造形的な陶作品が生み出されるようになりました。その新しい陶造形の現代までの多彩な展開を、当館のコレクションから紹介します。

【出品作家】

天野裕夫、伊藤慶二、伊村俊見、小塩薫、七代加藤幸兵衛(加藤裕英)、加藤委、川村秀樹、鯉江良二、鈴木五郎、中島晴美、長江重和



企画展： 令和5(2023)年度新収蔵品

令和5(2023)年度に当館が収集した作品(購入3点、寄贈36点、寄託2点)よりピックアップして紹介します。岐阜ゆかりの作家のうつわから、陶による造形の世界に挑んできた作家の作品まで、日本の近現代の陶芸のさまざまな姿を伝える作品をお楽しみください。

【出品作家】

加藤土師萌、栗木達介、塚本快示、坪井明日香、豊場惺也、三輪龍氣生(三輪龍作)

2. 独立行政法人国立美術館 国立陶芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/559>)

9月6日(金)～12月1日(日)

企画展： 心象工芸展

本展では、現代の表現を提示する6名の作家の作品を展示します。刺繍の沖潤子は生命の痕跡を刻み込む作業として布に針目を重ねた作品を、ガラスの佐々木類は土地と自然の記憶を留める作品を、金工の高橋賢悟は現代における「死生観」と「再生」をテーマにした作品を制作しています。また金工の人間国宝である中川衛は伝統工芸の世界で各国の風景を抽象模様化した作品を、漆芸の中田真裕は心奪われた一瞬の光景を共有するための作品を、陶芸の松永圭太は自身の原風景と時間を留める地層を重ねモチーフにして作品を制作しています。この機会に、工芸家それぞれの技術だけでなく今を生きる作家としての彼らの心の表現をご覧ください。



3. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波篠山】(<https://www.mcart.jp/exhibition/#jikai>)

9月7日(土)～11月24日(日)

特別展： 九谷赤絵の極致 宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界

赤絵の細密描写で名高い再興九谷の宮本屋窯(天保3～安政6年)。その存在は、明治以降の輸出九谷の誕生や発展につながりました。主工の飯田屋八郎右衛門(?～嘉永5年)は、赤絵細描に優れた手腕を発揮し、この様式は「八郎手」や「飯田屋」と呼ばれています。本展では、今に伝わる宮本屋窯の優品を一堂に会し、その魅力を紹介します。

